



第32回企画展「古代の鑄造技術—筑前の鑄造遺跡と復元実験—」  
(会期:平成27年12月1日(火)～平成28年1月24日(日))

## 筑前の鑄造遺跡～大宰府と芦屋～

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

### はじめに—鑄造とは—

金属を加熱して溶解し、砂や土、石などの不燃性の鑄型に注入して製品を作り出す方法を鑄造、または鑄金といいます。日本では、弥生時代に朝鮮半島から鑄造技術が伝えられ、国内での金属器生産が始まりました。初期段階では、石製の鑄型を用いましたが(写真)、やがて土製の鑄型を用いるようになります。日本の鑄造技術の画期は、6世紀の仏教伝来にあります。渡来人達は、仏像や梵鐘などの大型製品の鑄型を作る技術、そして大量の金属を溶かす技術を日本にもたらしました。それは、天平勝宝4年(752)、聖武天皇の大仏建立に結実するのです。

以後、鑄造技術は大きく変容することなく、現代「伝統的」とされる日本の鑄造技術に繋がっています。

本展覧会では、日本列島で最も早く鑄造技術が伝わった地域の一つでもある筑前地域(福岡県中南部)の鑄造遺跡と、それらの遺跡から出土した遺物の所見を元に、平成20年(2008)に筑前鑄造技術研究会(代表:境靖紀氏(故人))により行われた復元実験を通し、遺物からだけではわかりにくい鑄造の実態に迫ります。

### 1. 筑前の鑄造遺跡① 大宰府

弥生時代に伝わった鑄造技術による鑄造活動が、再び筑前地域において盛んになるのは、飛鳥・奈良時代以降です。中でも、西海道の中心であった大宰府が置かれた大宰府地域に、最も多くの鑄造遺跡が見られます。ここでは、大宰府地域の中でも古代から中世にかけて



弥生時代の石製鑄型  
(銅戈鑄型・筑前町東小田中原前遺跡)  
筑前町教育委員会蔵※「不動明王」の字は後に彫られたものです。

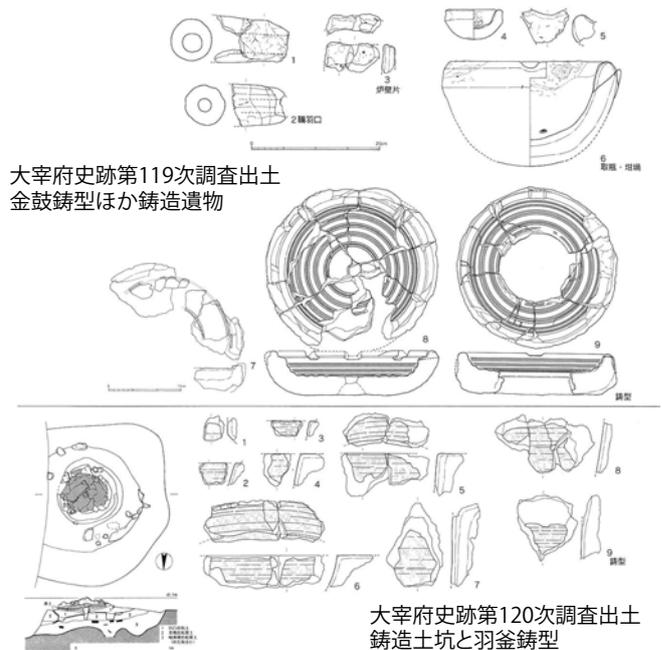
て盛んに鑄造が行われた観世音寺の事例を見ていきましょう。

「府の大寺」とも呼ばれた観世音寺は、西海道における九州の宗教的な中心地であり、そこで営まれるさまざまな仏事には、多くの鑄造製品が用いられたものと考えられます。

観世音寺東辺域で行われた大宰府史跡第119次調査では、平安時代(9世紀)頃の土層から、金鼓の鑄型がほぼ完全な状態で出土しました。またそれらに伴い、小型の羽口(送風口)、炉壁片、小型の取瓶(溶けた金属を受ける容器)、大型の坩堝(金属を熱して溶かす容器)の他、梵音具の鑄型なども出土しました。中でも金鼓の鑄型は韓国慶尚南道発見の咸通6年(865)銘の金鼓と類似すると指摘されています。

また、北辺域を調査した第120次調査では、10世紀頃と考えられる羽釜の「鑄込み」を行った鑄造土坑も見つかっています。

そして、観世音寺の境内各所では、鎌倉時代頃に至るまで、数多くの青銅製品を中心とした製品を製作した痕跡が見つかっています。



大宰府史跡第119次調査出土  
金鼓鑄型ほか鑄造遺物

大宰府史跡第120次調査出土  
鑄造土坑と羽釜鑄型

観世音寺で検出された鑄造遺構と遺物  
(平安時代(9～10世紀) 岡寺2007から転載)

## 2. 筑前の鑄造遺跡② 芦屋

中世において、筑前を代表する鑄造製品制作の場としてあげられるのが、筑前国芦屋津(福岡県遠賀郡芦屋町芦屋)です。

芦屋と言えば、「東の天命、西の芦屋」と称されるように、鉄製の茶釜の鑄造が有名です。実際は、茶釜に限らず、梵鐘などの大型青銅製品も数多く造られ、中世北部九州における鑄造製品の一大生産地で、鑄造工人たちは「芦屋鑄物師」と呼ばれました。

彼らが制作した茶釜「芦屋釜」は、胴部に表わされる優美な文様と真形とよばれる端整な形が京の貴人達に好まれ、室町時代には一世を風靡しました。芦屋釜の製作は江戸時代初期頃に途絶えますが、その評価は今なお高く、国指定重要文化財の茶の湯釜9点の内、8点までを芦屋釜が占めています。

芦屋町立芦屋釜の里の調査から、芦屋釜の優れた特徴が分かってきました。それは胴部の厚みがわずか2mm程度で作られており、薄く軽く、美しさを使い勝手の良さを兼ね備えていました。これらはまさに名品として世に知れ渡ったゆえんと言えましょう。

芦屋町金屋遺跡では、中世・芦屋鑄物師たちが活動した痕跡が発掘調査で見つかっています。遠賀川河口の西岸、現在の芦屋の市街地における調査で見つかったのは、金属を溶かすための大型の甑炉こしきろの底部で、室町時代頃のものと考えられています。また、周辺からは、芦屋釜の真形釜の鑄型や、鑄型本体に埋め込まれる埋型いけと呼ばれる鑄型、花瓶(花生け)の鑄型などの他、サル(釜などの鑄型の中に焼き炭を立てかけ、鑄型の水

分を取り除くための三叉状土製品さんさや、貝口かいぐち(鑄型どうしを重ねる時に用いるもので、土器を丸く打ち欠いたもの)などの道具も見つかりました。

金屋遺跡の発掘調査は、まだあまりなされておらず、これらの発見も芦屋鑄物師の活動痕跡の冰山の一角だと思われます。(学芸調査室 岡寺 良)

<参考文献>

- ・芦屋町教育委員会1995『筑前金屋遺跡』芦屋町文化財調査報告書第7集
- ・岡寺 良2007『観世音寺境内における金属器生産活動～鑄造・鍛冶関連遺物を元に～』『観世音寺』考察編 九州歴史資料館



芦屋町金屋遺跡で見つかった甑炉 (写真提供: 芦屋町教育委員会)



芦屋釜鑄型



花瓶鑄型



埋型鑄型

芦屋町金屋遺跡で見つかった鑄型 (写真提供: 芦屋町教育委員会)



芦屋霰地真形釜 (芦屋釜の里蔵)



編集 発行: 平成27年12月1日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>